

# 【国語・小5・「俳句を作ろう」】①

## 育成を目指す資質・能力

- (知識・技能) 思考に関わる語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。
- (思・判・表) 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。
- (学びに向かう力等) 言葉がもつよさを認識するとともに、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

## ICT活用のポイント

ICTの試行錯誤のしやすさを生かして多様な俳句を創作できるようにし、俳句への興味・関心を高めた授業

### 【自力解決1】

ウェビングマップで季節のイメージを広げる

### 【自力解決2】

季節に合った五音・七音を付箋に打ち込む

### 【自力解決3】

カードを並び替え、俳句の形にする

### 【集団解決】

学習支援ソフトで俳句を共有し、助言し合う

## 事例の概要

- 児童が五音・七音のカードを組み合わせることで試行錯誤しながら俳句作りに取り組むとともに、自分たちで作った俳句を相互に見合い、助言し合うことで、よりよい俳句にしていくことをねらった授業である。

## 事例におけるICT活用の場面①（自力解決1・2・3）

- ウェビングマップで広げた季節のイメージをもとに、季節に合った五音と七音の言葉をホワイトボードアプリ上の付箋に打ち込む。
- 自分の思いが伝わる俳句となるよう付箋を並び替え、俳句の形にする。

## 事例におけるICT活用の場面②（集団解決）

- 交流の視点を示した上でペアで複数回俳句を読み合い、よりよい俳句となるよう助言し合う。助言は後から見直せるようホワイトボードアプリ上の付箋を使用する。

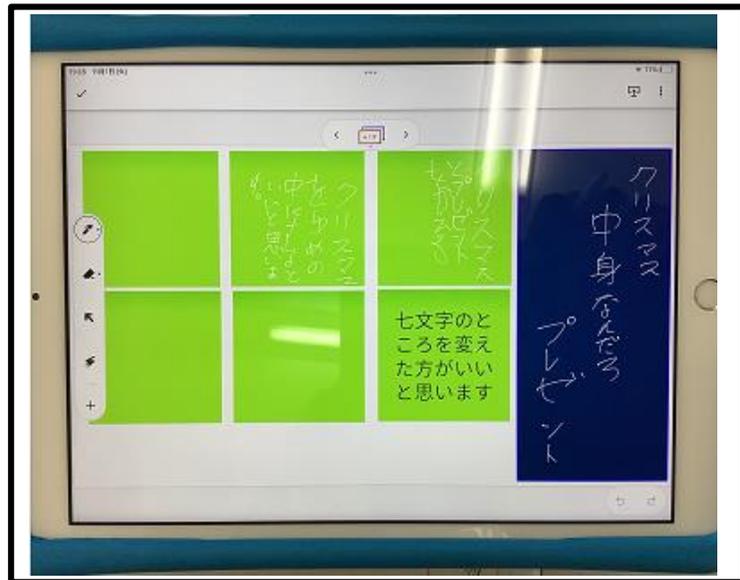
# 【国語・小5・「俳句を作ろう」】②

## 【事例におけるICT活用場面①】



本單元では、「冬」が俳句の共通テーマとして設定されていた。創作にあたり、まずはウェビングマップを用いて冬から連想される事柄や心情を挙げ、イメージを広げた。続いて、それらの語句を五音・七音にしてホワイトボードアプリ上の付箋に打ち込んだ。この付箋を自由に動かすことで、児童は様々な組合せ、語順を試行錯誤しながら俳句を作ることができた。創作過程で文言を修正したり、新たな付箋を加えたりすることが容易であり、苦手な児童にとっては俳句の作りやすさ、得意な児童にとっては推敲のしやすさというメリットがあった。

## 【事例におけるICT活用場面②】



集団解決では、前時に教科書の記述を基に児童が作成した「俳句のルール」に従って、助言し合った。画像の例では、上五と下五を入れ替えた方が想像が広がる点や中七の表現に工夫の余地がある点が助言されていた。ペアを変えながら複数回助言をする機会があるため、季語や定型など俳句を読むための資質・能力も同時に育てることができていた。

### 【活用したソフトや機能】

- ・ホワイトボードアプリ
- ・授業支援ソフト